

オホーツク水圏環境学特論実験（一）（2単位）

担当者氏名 塩本明弘、西野康人、中川至純

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

オホーツク海は冬季に氷の海となる大きな特徴を有している。氷海域での環境に関する調査・研究を実施するために必要な実験計画、分析技術の習得、並びにデータの解析力を身につけさせる。

◆取り扱う領域（キーワードで記載） ご自身のキーワードを記入してください

オホーツク海 水圏環境 生態系 生物生産
環境変化 水産業

◆授業の進行等について

	テ ー マ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1～6	実験計画 (担当：塩本明弘)	オホーツク海の環境や生物をモニタリングしたり、試料を収集するための計画の立て方について講義し、身につけさせる。	◎予習として2時間程度、講義テーマについて教科書や参考資料を読み理解しておくこと。
7～12	物理的・化学的環境要素モニタリング技術の習得 (担当：塩本明弘)	光、水温、塩分、栄養塩などの測定に用いられる一般的な測定手法や用いる機器の原理や使い方について講義し、身につける。	◎復習として2時間程度、講義中のデータ取得技術に関する解説や原理を整理して理解を深め、技術を習得すること。疑問点は次回の講義までに解決しておくこと。
13～18	植物プランクトン・アイスアルジーモニタリング技術の習得 (担当：西野康人)	植物プランクトンやアイスアルジーの収集や前処理の仕方、測定に用いる機器の原理や使い方について講義し、身につける。	
19～24	動物プランクトンモニタリング技術の習得 (担当：中川至純)	動物プランクトンの収集や前処理の仕方、測定に用いる機器の原理や使い方について講義し、身につける。	
25～30	データ解析 (担当：塩本明弘)	得られたデータの解析方法、まとめ方について講義し、身につける。	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

適宜、資料などを配布する

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

授業中に紹介する

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

授業参加態度（授業中の質問に対する回答等）を加点し、最終評価を行う。レポートで評価する

◆オフィスアワー

随時

◆その他受講上の注意事項

◎氷海域における調査研究を行うために大事な理論と技術を習得するための実験であるため、準備学習を十分に行うこと。